

大阪は「まち」がほんまにおもしろい



なつかしのお阪芸人発祥の地 ～てんのじ村から新世界へ～

大正から昭和にかけて娯楽の聖地としてにぎわった新世界。付近の「てんのじ村」には、日本全国各地から芸人たちが集住して、昭和20～30年代の最盛期には300人以上もの芸人が暮らしていました。あなたが好きだった、思わずマネをした、なつかしのお阪芸人たちの思い出に浸る、こんなまち歩きはいかが？

1 新世界稲荷神社

新世界稲荷神社は新世界誕生と同時代に、商売繁盛や新世界の繁栄を願って造られました。境内には一風変わった珍しいルーレット式のおみくじ(無料)があり、石をゴロゴロと回転させて、覗き穴に止まった数字で事の吉兆、凶兆を占うことができます。

2 釣鐘屋本舗

明治33年(1900)、地元の有志から四天王寺に大梵鐘が奉納されて、その奉納記念として、釣鐘のかたちを模した饅頭を四天王寺の門前で売り出したのが「釣鐘まんじゅう」のはじまりです。大阪・新世界名物として人気があります。

3 ギャラリー再会(非公開)

昭和28年(1953)に建築家・石井修氏の設計で純喫茶「再会」として建てられたものです。「再会」の美しさに惹かれて、往年の銀幕スターたちもよく遊びに来ていたそうで、片岡千恵蔵から寄贈された記念品(時計と鏡)などもあります。平成18年(2006)12月には国の登録有形文化財となりましたが、現在は喫茶店としての営業はしていません。月に一度ほど開催されるジャズコンサートの時のみ、中に入ることが可能です。

4 浪速クラブ

「日本一、粗末な建物で、日本一、安い入場料で、日本一、入場者の多さと出演者の芸熱心が誇り」という大衆演劇場。昭和31年(1956)に建てられて、当時の新世界の雰囲気は今も醸し出しています。リーズナブルなお値段で、素晴らしい「芝居」「歌」「踊り」を、思う存分、満喫できます。

5 新世界国際劇場

昭和5年(1930)オープン。元々は「南陽演舞場」という芝居小屋でしたが、昭和25年(1950)に映画館としてリニューアルしました。劇場の外観は演舞場時代のままで残されており、昭和初期に建てられた重厚なデザインの近代建築を見ることができます。

6 朝日劇場

明治43年(1910)創業。100年の伝統と歴史を誇る大衆演劇専門劇場で、過去には曾我廼家鶴蝶、宮城まり子、ミヤコ蝶々、藤山寛美、ディック・ミネといった錚々たる大物役者を育てたことで非常に有名です。現在でも、歌あり、芝居あり、トークありの約3時間ものエンターテインメントショーが、連日繰り広げられています。

7 噴泉浴場跡の壁

大正2年(1913)に竣工した2階建て洋館の温泉リゾートです。700坪の敷地で、二重の円形浴場、演舞場、理髪店、セルフサービスの食堂などがありました。外側の浴槽は人が泳げるほどの広さと深さがあり、内側の浴槽では中央部分に大理石でできた美人像があって、頂上より滝のように湯が落ちてくる仕様で、これが「噴泉浴場」の名の由来です。またドイツから輸入したラジウムを使った薬湯が大人気となったことから、浴場のことを「ラヂウム温泉」と呼ぶようになりました。大正7年(1918)には「電気旅館」という名の割烹旅館が併設されて、新世界の他施設が入場者不足に悩む時期にあっても好況でしたが、惜しくも戦災で焼失して、現在は外壁部分の一部のみが残っています。

8 ジャンジャン横丁

正式名称は「南陽通商店街」。通天閣から遊郭に向かう客に向かって、鳴り物の三味線で「ジャンジャン」と呼び込みをやったのが名前の由来といわれています。新世界の名物・串かつ屋をはじめ、昭和初期を感じさせるレトロな将棋場が並んでいます。平成21年1月27日には、大阪府知事より大阪ミュージアムの登録物に認定されました。

9 上方演芸発祥之地「てんのじ村記念碑」

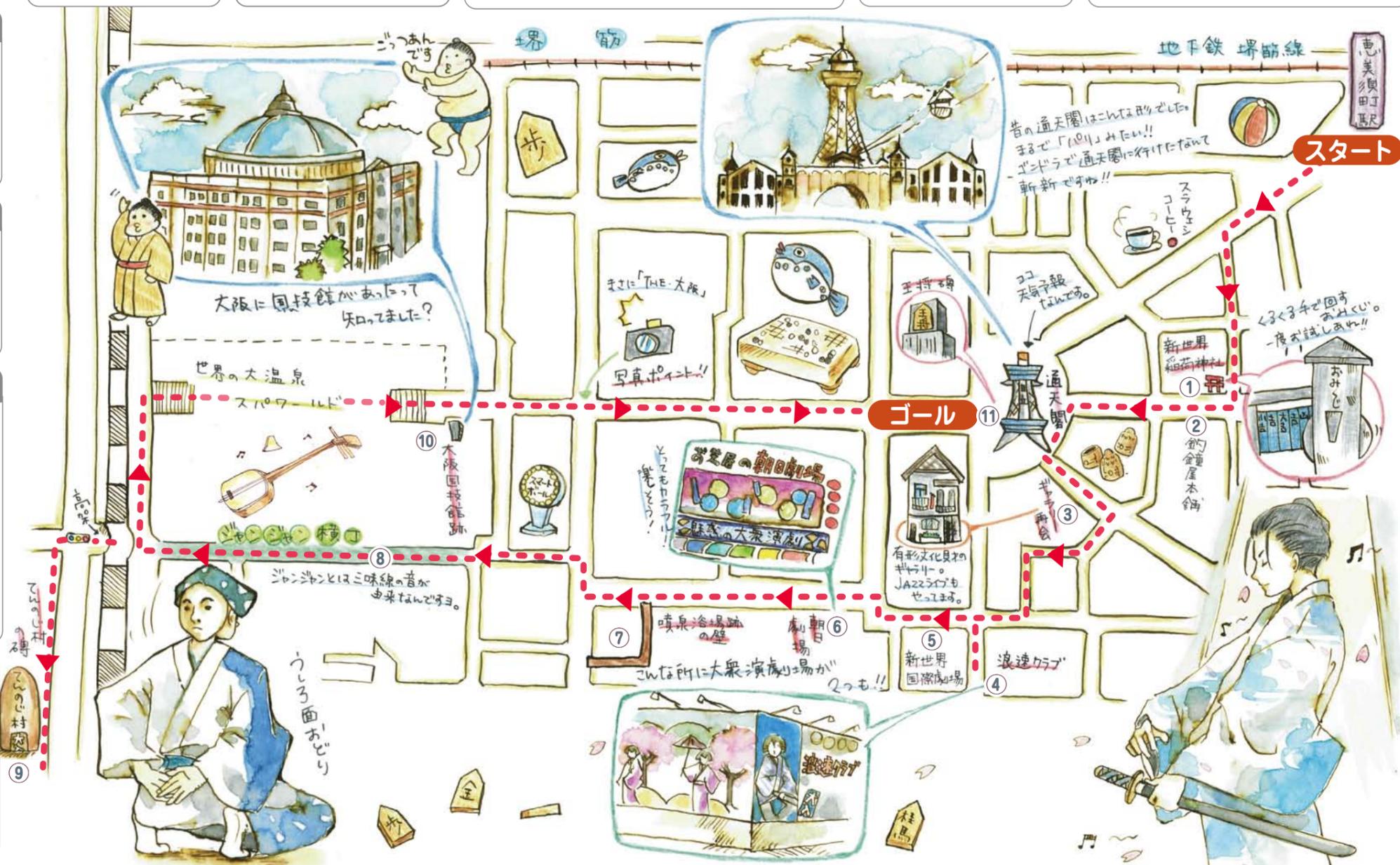
この付近が、直木賞作家・難波利三氏の小説で有名になった「てんのじ村」の舞台です。道頓堀・千日前・新世界などの演芸街に近かったため、最盛期には300人以上もの芸人が集住していたといわれています。戦災にあわなかったため、戦後も古い長屋が残っていましたが、阪神高速松原線の建設(1970年開通)や再開発によって取り壊され、当時の面影はほとんど残っていません。記念碑は上方を代表する漫才台本作家・秋田實の筆で、台座部分には「大入」と描かれています。

10 大阪国技館跡

かつては江戸以上に相撲興行の隆盛を誇った大坂相撲ですが、近代以降は東京一極集中化で衰退しつつありました。そこで大阪角力協会が東京に対抗して建設したのがドーム式相撲常設館「大阪国技館」です。鉄筋コンクリート・煉瓦造で、建築面積約2000平方メートル、収容人員10000名で、大正8年(1919)に開館しました。東西合併大相撲、春秋の本場所などが開催されましたが、それでも大阪相撲の衰退は防ぐことが出来ず、大正14年(1925)について相撲興行を中断。昭和2年(1927)に東西相撲の合併で大日本相撲協会が設立されると、昭和3年(1928)に映画館として再出発。以降、松竹キネマ映画と大阪松竹少女歌劇のレビューを興行しましたが、昭和20年(1945)の大阪大空襲で、焼失しました。

11 通天閣

第5回内閣勸業博覧会(明治36年・1903年開催)の会場跡地に、明治45年(1912)にパリのエッフェル塔と凱旋門を模した初代通天閣が建設されました(工事には大阪電灯社員で当時17歳の松下幸之助も参加していました)。東洋一の高さを誇りましたが、昭和18年(1943)に直下の映画館・大橋座の火災で強度不足となり軍需用鉄材として解体されました。現在の2代目通天閣は昭和31年(1956)に完成したもので、高さ103メートル。設計者は名古屋テレビ塔、東京タワーを手がけた内藤多仲です。ちなみに通天閣とは「天に通じる高い建物」という意味で、命名者は高名な儒学者・藤沢南岳です。



【注意事項】この地図は「大阪あそび」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそび」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそび」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。http://www.osaka-asobo.jp または「大阪あそび」でネット検索を。

大阪あそびのコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。